

漁船「堀栄丸」衝突海難事故の概要と現状について

1 事故の概要と捜索活動状況等

- (1) 9月24日未明、宮城県金華山沖東約900キロメートルの太平洋上で、本県紀北町のカツオ一本釣漁船「堀栄丸」(119トン)とパナマ船籍の大型貨物船「ニッケイ タイガー」(約2万5千トン)が衝突しました。
- (2) 9月24日午前7時過ぎに「堀栄丸」の乗組員22名(日本人:17名 インドネシア人:5名)のうち9名(日本人:5名 インドネシア人:4名)が、三重県船籍の光栄丸(紀北町)によって救助されました。
- (3) 残る13名については、現在も捜索を行っていますが、依然として行方不明です。
《捜索船等の救助活動状況》
 - ・近隣で操業していた漁船(24日～27日正午まで 最大で16隻)
 - ・海上保安庁の巡視船や航空機(25日～)
 - ・海上自衛隊の航空機(24日～)
- (4) 乗組員家族については、26日に行方不明者家族が現地入りし、捜索状況を見守りました。また、28日に救出者家族が現地入りし、29日朝、光栄丸により仙台塩釜港に帰還した救出者を出迎えました。救出者及び乗組員家族は30日夜、紀北町に戻られています。

2 県の対応状況

- (1) 9月24日事故発生後、直ちに東日本大震災への支援のため宮城県へ派遣している県職員を通じて第二管区海上保安本部の情報を収集するとともに、三重外湾漁協紀州北支所に設置された「堀栄丸衝突海難緊急対策本部」に尾鷲農林水産商工環境事務所職員を派遣し、情報を収集しました。
- (2) 9月25日10時30分に三重県漁船「堀栄丸」衝突海難事故対策本部(本部長:危機管理統括監)を設置、第1回本部員会議を開催し、情報の共有を図るとともに、25日から本庁幹部職員を現地に派遣し、情報収集及び乗組員家族のサポートすることを決定しました。また、9月26日に第2回本部員会議を開催し、乗組員家族の状況等について情報共有を行いました。
27日以降は、同衝突海難事故への対応状況について、毎日15時を目途に報道機関等に情報提供を行っています。

3 今後の対応

引き続き、紀北町や三重外湾漁協と連携しながら、捜索状況や乗組員家族の要望等の情報収集に努めてまいります。